



TANABE CONSULTING 2022-2023

アグリサポート研究会

ゲストご紹介資料

ビジネスの最前線を走る企業による実践型講義と現地視察で、

成功・失敗のリアルなポイントを学びます。

講義・視察を受けての提言とノウハウを

コンサルタントがわかりやすく統括し的確にサポート。

経営層との交流も図れ、

各社のノウハウを自社の強みに転換することができます。

ぜひ、ご参加ください！

▼ 詳しくはこちら

タナベ 研究会

検索



お申込み・詳細はタナベコンサルティングホームページ
または、担当コンサルタントまでお気軽にお尋ねください。



トゥリーアンドノーフ 株式会社

代表取締役 徳本 修一氏

**これからのプロ農家は作るだけでなく、
ファクトを発信しなければならない。**

土地利用型農業にとって、これから特に重要となるのが、最小限の資源で最大の収穫物を得る
＝飛躍的な生産性の向上だと考えられる。

そのためには、科学的視点に立った確かな農業経営や超大規模化はもちろん、
革新的技術—特に遺伝子組み換えやゲノム編集といったバイオテクノロジーの積極的な活用が求められる。

しかしこれまで日本では、バイオテクノロジー農業の健全な議論が出来ていなかった。
持続可能な農業の為に、現場に立つ農家がファクトを発信することが、より重要になってきている。



共同利用・共同研究拠点 国立大学法人

鳥取大学乾燥地研究センター

センター長 辻本 壽氏

乾燥地農業における現状と課題、その解決策

—乾燥地の自然と社会に対して、その持続性の維持・向上に貢献する—

1. 鳥取大学乾燥地研究センターは、日本で唯一の乾燥地教育研究機関であり、共同利用・共同研究拠点「乾燥地科学拠点」としても認定され、国内外との共同研究を通じ、乾燥地の諸問題についての研究推進や人材育成の役割を担っている
2. 乾燥地科学分野における全国共同利用の拠点として、砂漠化や干ばつ等の諸問題の解決及び乾燥地における持続可能な開発に資する研究を推進する
3. 砂漠化や干ばつ、そして今後重要性を増してゆくと考えられる気候変動等、地球規模の問題の解決には、国内外の研究ネットワークの形成と活用が不可欠である